あまのじゃくとうるしめんこ

むかしむかし、じっちゃと、ばっちゃと、うるしめんこの三人で暮らしておったそうな。そのうち、近くに、あまのじゃくというとても乱暴な奴がおってな。ある日じっちゃとばっちゃは、うるしめんこにこう言って山へ出かけていった。「あまのじゃくがきても、絶対に家さ入れるな」。

昼頃になると「うるしめんこ、うるしめんこ戸さっと(少し)あけてけれ」とあまのじゃくが言ってきた。「おら戸あければ、じっちゃと、ばっちゃに怒られる」「指こさつとはいるだけでえ」。あまり何度も、何度も言うので少しあけてやると、あまのじゃくは、それとばかりに家の中に入り、うるしめんこを殺してしまい、顔の皮をはいで自分の顔にかぶせたと。

夕方じっちゃと、ばっちゃが山から帰ってきて「あまのじゃく、こねあがたか」と聞くと、うるしめんこに化けたあまのじゃくは「こねあがった」といってごまかした。「なんだ声おかしな。風邪でも引いたか、早く寝れ」。「ん風邪ひいた。あまのじゃくは知らぬふりをしてさっさと寝てしまった。

朝になってばっちゃが「うるしめんこ、顔洗ってまんま食べれ」といったが顔洗わないで食べようとしたので、手拭でうるしめんこの顔ふいてやった。するとうるしめんこの顔の皮がみんなはげて、あまのじゃくであることがばれてしまった。じっちゃとばっちゃはかんかんに怒って、あまのじゃくを外に出し萱株の中をひきずり回したら、あまのじゃくから流れ出た血が、みんなかややぶに浸みてしまったと。かやを刈ると根が赤いのはそのせいだとさ。

トッピンパラリのプー